

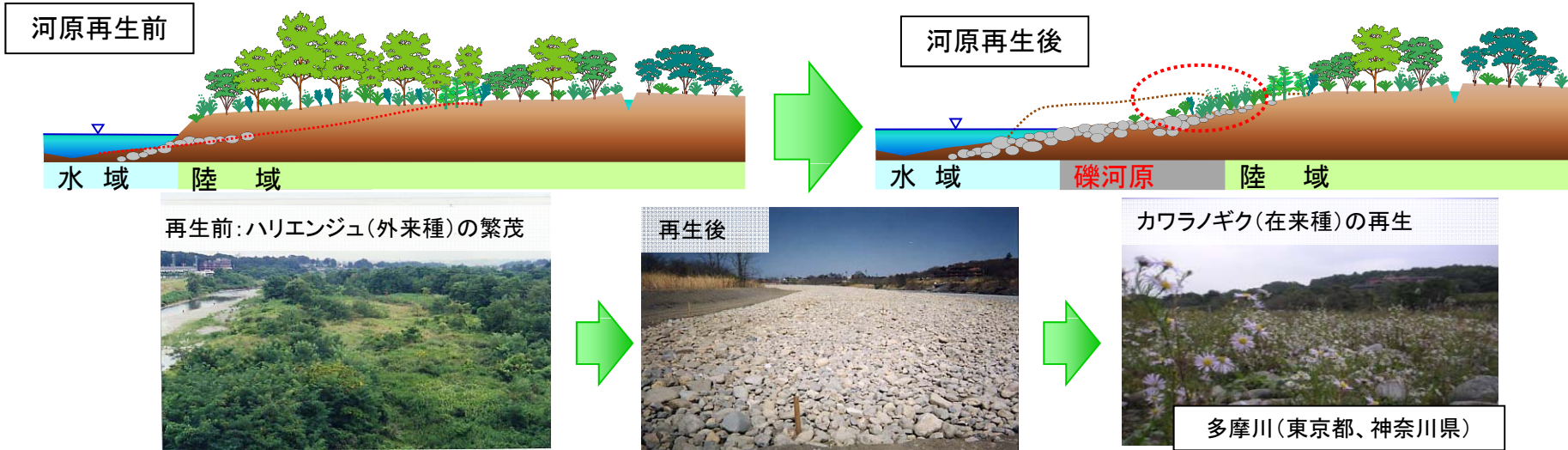
# エコロジカル・ネットワークの形成について

# 生物多様性に配慮した河川の自然再生

- 河川が本来有している生物の生息・生育環境、多様な河川景観の保全・復元を目指す取組の一貫として実施。
- 極力人の手を入れず、河川の自然の復元力を活かした川づくりを目指す。

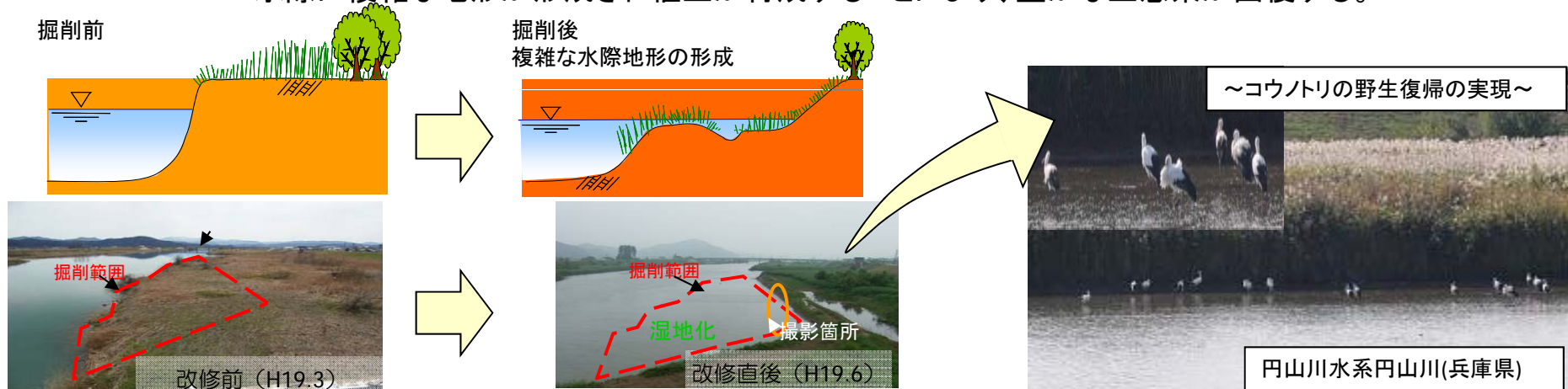
## 砂利の豊かな河原再生

河川の高水敷の掘削などで、河岸の冠水頻度を増加させ、砂利の豊かな河原を再生する事業。定期的に出水の影響を受けることにより、河原特有の植生・生物相が回復する。



## 湿地再生

河川の河岸の部分を通常の水位よりも低く掘削することで、湿地を再生する事業。水際に複雑な地形が形成され植生が育成することにより、豊かな生態系が回復する。



○円山川では、昭和30年頃まで、コウノトリが多数生息する河川。  
○周辺の開発、農薬の影響等により、コウノトリは絶滅（日本で最後の野生生息地となった）

平成16年、円山川で大水害発生  
（床上浸水522戸、床下浸水3,139戸、浸水面積4,083ha）

地元では、極力、農薬を使わない営農を実施

地元住民等は、治水対策にあわせて、コウノトリとの共生を希望

川の容量を拡大するための掘削を行う際に、水深が浅い湿地帯を生み出し、コウノトリの採餌環境を創出。  
湿地面積を約5割増加させた。



環境負荷の小さいアイガモ農法

コウノトリの餌となる小魚やドジョウ等の生息環境を確保

コウノトリの野生復帰



改修前（2007年3月）



改修直後（2007年6月）



改修後（2008年10月）

立野大橋下流右岸から左岸を望む

写真提供：  
県立コウノトリの郷公園



お米などの地域ブランド  
づくりにつながっている。



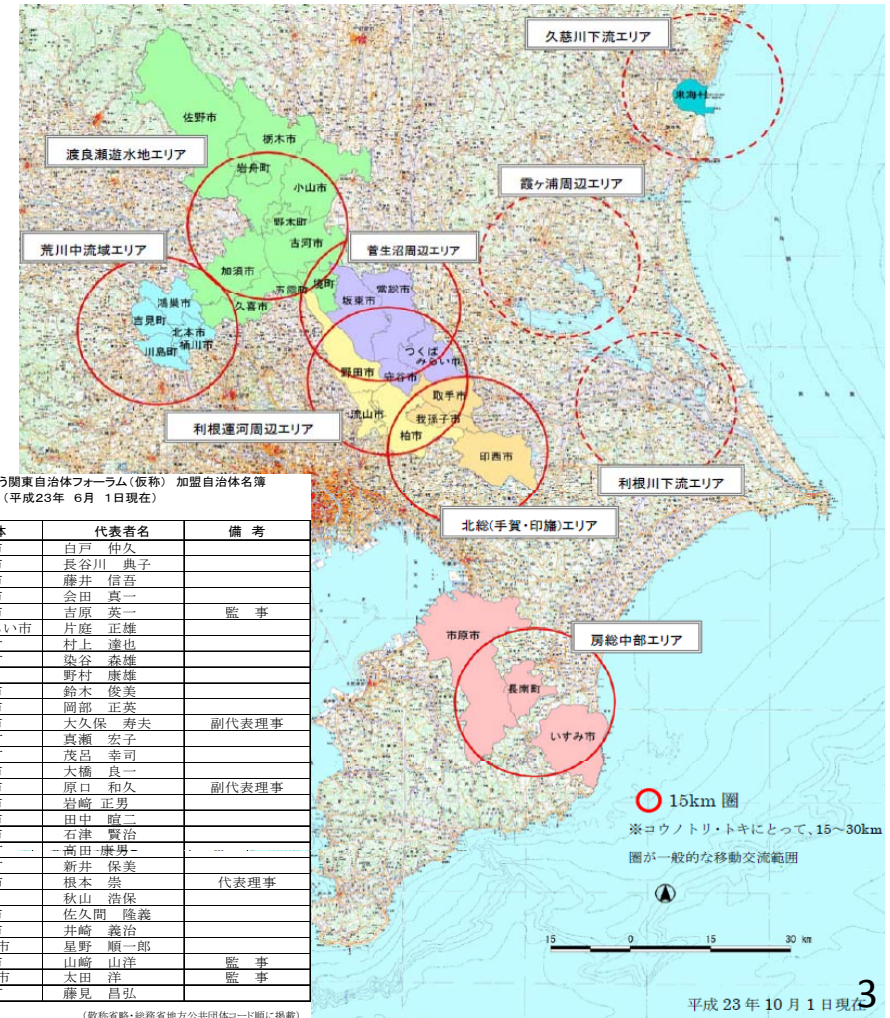
# コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラムについて

(主旨) 関東地方がコウノトリ・トキのかつての主要な分布域であったことや、これらの種が良好な水辺や緑地の指標になることに鑑み、多様な主体の協働・連携によりコウノトリ・トキの野生復帰を通じたエコロジカル・ネットワーク形成を図り、もって**地域の振興と経済の活性化を促す魅力的な地域づくりを実現**させることを目的として設立

## 【これまでの流れ】

- H.20年7月「国土形成計画(全国計画)」に、「エコロジカル・ネットワークの形成を通じた自然の保全・再生」を明示。
- H.21年8月「首都圏広域地方計画」に、「南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト」を位置づけ。
- H.21年11月 「南関東エコロジカル・ネットワーク形成に関する検討委員会」を設置、現在継続中。
- H.22年7月「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」が発足、H23年11月30日現在、千葉・埼玉・栃木・茨城の4県にわたる29市町村が加盟。
- 先行モデル自治体として、野田市がH.24年秋のコウノトリ飼育・繁殖開始に向け準備中。

## ■コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム参加状況



コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム(仮称) 加盟自治体名簿  
(平成23年 6月 1日現在)

県	自治体	代表者名	備考
茨城県	古河市	白戸 伸久	
	常総市	長谷川 典子	
	取手市	藤井 信吾	
	守谷市	会田 真一	
	坂東市	吉原 英一	監事
	つくばみらい市	片庭 正雄	
	東海村	村上 達也	
	五霞町	込谷 康雄	
	境町	野村 俊美	
栃木県	栃木市	鈴木 俊美	
	佐野市	岡部 正英	
	小山市	大久保 寿夫	副代表理事
	野木町	喜瀬 宏子	
	岩舟町	茂島 幸司	
埼玉県	加須市	大橋 良一	
	鴻巣市	岡口 和久	副代表理事
	桶川市	岩崎 正男	
	久喜市	田中 賢二	
	北本市	石津 賢治	
千葉県	川島町	高田 康男	
	吉見町	新井 保美	
	野田市	根本 崇	代表理事
	柏市	秋山 浩保	
	市原市	佐久間 隆義	
	流山市	井崎 義治	
	我孫子市	見野 順一郎	
	印西市	山崎 山洋	監事
	いすみ市	太田 洋	監事
長南町	藤見 昌弘		

(敬称省略・総務省地方公共団体コード順に掲載)

# 南関東地域におけるエコロジカル・ネットワークの形成（役割分担）

## 【関係自治体の取り組み】

### 飼育・放鳥に係る拠点施設整備と多様な主体の協働

- ・飛べない状態にしたカップルを飼育・繁殖させ、巣立ち幼鳥を自由にさせる（段階的放鳥と呼ぶ）
- ・そのため、飼育・繁殖させるための施設を整備し、多様な主体の連携・協働・推進のための体制づくりが必要



飼育・繁殖の施設（ゲージ）の整備



巣棟の整備

多様な主体の協力・連携による  
「多持続可能な地域づくり」

地域振興・経済活性化

## 【地域の取り組み】

### 継続的取組みと地域振興・経済活性化への展開

- ・住民参加、観光、ブランド商品等の推進

住民参加



野鳥観察会の様子（天塩川）



生物調査（松浦川）

ブランド商品



コウノトリ米（円山川）

観光



## 【河川等の各管理者の取り組み】

### 採餌及び営巣・孵（ねぐら）の生息環境整備の推進

- ・採餌環境として必要な水辺や、営巣・孵環境として必要な樹林の整備
- ・水辺（採餌）は河川環境（浅瀬、湿地）整備、及び農業環境（水田等）により確保し、樹林（営巣・孵）は既存樹林地の保全・育成により確保



円山川における湿地再生

写真提供：  
兵庫県立コウノトリの郷公園



環境負荷の小さいアイガモ農法



# コウノトリ越前市に

## 兵庫からペア1組 国許可

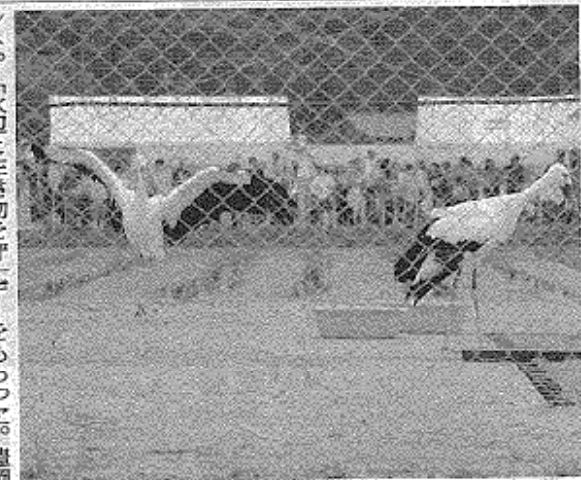
県、放鳥視野に

文化庁の文化審議会は18日、兵庫県豊岡市で飼育中の国特別天然記念物コウノトリのペア1組について越前市への移動を了承、同行が許可した。環境省の審査終了後、近くコウノトリを移動させる。福井県は放鳥を視野に入れており、野生復帰を前提に豊岡から移動させるのは初めて。

越前市では合併前の旧武生市で1971年に野生のコウノトリ1羽が保護された。越前市民らはコウノトリ復活を求め、両県知事は昨年8月、豊岡市のコウノトリ移動で合意した。移動するのは豊岡市の県立コウノトリの郷公園で繁殖実績のあるペア1組。越前市西部の山間部にある農地には既に飼育用の野外ケージが設けられている。

福井県は放鳥も視野に入れているが、人材など環境整備が整っていないとして両県が協議。福井県が飼育に限り受け入れるとして10月、文化庁と環境省に移動を申請した。ペアは来春産卵する可能性があるが、福井県は「その都度、豊岡市での知恵と経験を借りる」としている。

県自然環境課は「受け入れに向け一歩前進した。地元住民とともに餌場作りなど飼育できる環境作りを進めてきた。年内に受け入れが実現してほしい」とコメント。豊岡に次る農家と市民の会」の堀江くコウノトリのふるさとに



野外ケージに移動されたコウノトリ (2007年9月30日、兵庫県豊岡市で)

H23.11.19 (土)  
読売新聞 (朝刊)

H24. 1. 4 (水)  
日経新聞 (朝刊)



放鳥を目指すコウノトリ (2010年5月、兵庫県豊岡市) =財団法人日本生態系協会提供

国の特別天然記念物コウノトリの野生復帰を目指し、千葉県野田市が関東地方で初めてとなる放鳥の準備を進めている。繁殖に先進的に取り組む兵庫県豊岡市に協力を求め、つがい借り受けるなどして今年秋から飼育を始める方針。

## コウノトリ関東の空へ

### 千葉・野田で放鳥準備

す。周囲には減農薬の市民農園や耕作放棄地が広がり、餌となるカエルやドジョウも確保できるといふ。野田市は2006年、野生動物植物の生育環境を保全するための条例を制定。10年7月には、茨城、千葉、埼玉、栃木各県の29市町村でつくる「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」を設立し、コウノトリ放鳥計画の先行モデル地区に指定された。

日本の野生のコウノトリは1971年に絶滅。日本生態系協会によると、関東地方の野生種は1890年代までに絶滅したとされる。野田市の担当者は「コウノトリは田んぼの食物連鎖の頂点。自然再生のシンボルにしたい」と期待している。